

令和7年7月 市長定例記者会見

2025年7月1日(火)

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 定刻となりましたので、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 改めまして、皆さん、こんにちは。7月の定例記者会見をさせていただきます。

まず最初に、6月27日、先週から、南地区を皮切りにしまして、地区の方々と市長と語る会ということでスタートしました。

今回、「市長と語る会～お出かけ市長室～」という名前にしまして、私、市長室で市役所のスタッフと、いろんな事業やこれからどうしていくんだという話をしているんですけども、そのような形で伺った先で、市民の方とまるで市長室にいるかのようにこれからのことを話したい、あるいは身近な困っていることを話していきたいという思いで、お出かけ市長室というコンセプトで今年はやろうと思っています。

全10地区、各地区1回ずつの開催を予定しておりまして、敦賀市民の方であればどなたでも参加できます。住んでいらっしゃる場所じゃないところの会場に行ってくださいでもいいですし、申込みも不要ですので、ぜひお気軽に参加いただきたいなと思っています。

あと、今月ですけれども、参議院選挙があるということで、7月3日公示、7月20日が投票日ということになっています。有権者の皆様、18歳以上、ぜひ投票所のほうに足を運んでいただきたいと思っておりますし、今回、投開票日が三連休の中日になるということで、記録が残る1952年以降では初めてと聞いています。ですが昔と違うのは、結構期日前投票も多いということがありますし、敦賀市の場合ですと市庁舎の1階オープンスペース、それからアル・プラザ敦賀のほうで期日前投所を開設する予定ですので、選挙当日に何か予定があって行くことができない方は期日前投票をお願いしたいと思います。

冒頭、私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 それでは続きまして、事業発表に移ります。

ポーランド共和国及びリトアニア共和国への使節団の派遣について、お願いいたします。

【市長】 7月27日、今月の27日から8月3日にかけて、敦賀市の使節団としまして、市議会議長と共にポーランド共和国、それからリトアニア共和国を訪問します。

現地では、シベリアから救出されたポーランド孤児や命のビザを携えてユダヤ難民が上

陸した人道の港敦賀の歴史に関連する施設、あるいは機関を訪問し、現地の関係者の方々と面会をします。その関係をより強固なものにしていきたいと思っています。

今後、市民交流、特に若い方の相互交流をできたらなと思っているんですけども、そうした交流につなげていきたいと思っています。

今回の訪問では、そうした意味もありまして、在ポーランド日本大使館の協力をいただき、ポーランド孤児に関連のある3つの現地の自治体と、今後の連携に向けた意向表明書というものを取り交わしたいと思っています。これは、お互いに可能な範囲で相互交流を継続して行っていくといった連携を目指していくというものです。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けいたします。

最初に幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 今ほど発表のありましたこちらに関して、例えばこういう施設に行くみたいな、ポーランドで人道だと、素人考えではアウシュビッツとかもあるかなと思いますが、そういった施設に行くのでしょうか。より詳しく教えていただければと思います。

【市長】 そうですね。リトアニアでしたら、向こうには杉原千畝の記念館がありますので、当然それは旧日本領事館ということになりますけれども、そこに何う予定をしています。

それからポーランドのほうについては、シベリア孤児の話というのはポーランドにとっても大事な、本当に国の成り立ちにも関わってくるような大事な話になっているので、例えばシベリア孤児の名前を冠したような、それにまつわるような記念小学校もありますので、あと博物館もありますので、そういったところを訪問していく予定にしています。

施設でいいますと、今申し上げたシベリア孤児記念小学校ですとか、あと博物館、それから第2次世界大戦にまつわる場所ということで、ワルシャワ蜂起博物館もありますので、そうしたところにも寄せていただこうかなと思っています。

詳しい行程表は、また後ほどお配りします。

【記者】 あと、今回のこの事業について、事業費、市のほうでは幾らぐらい皆さんで組んで行かれるのでしょうか。

【市長】 予算は幾らぐらいでしたっけ。

【文化交流部長】 事業費でございますが、645万5000円でございます。

【記者】 交通費とか滞在費。

【文化交流部長】 そうですね。旅費とか、レンタルの携帯電話が必要だとか、お土産とか、あとは現地での通訳とかお車とか、そういったものをひっくるめまして645万5000円でございます。

【広報広聴課長】 それでは、次に各社よりお願いいたします。何かございますでしょうか。

【記者】 今回、視察派遣するというので、改めてですけれども、どういった思いで欧州、リトアニア、ポーランドへ行かれるというところなんですか。

【市長】 私、市長になってからも、ポーランドであったり、リトアニア関連のいろんな交流であったりとか、あるいは行事だったりというのがあったんですけれども、一回やっぱり現地へ行くべきかなと思ったのは、ポーランド孤児の子孫の方が敦賀に来られたことがありまして、そのときにいろんな方とお話をしていたときに、昔の歴史に基づいたつながりというのがあるんだなど。

令和6年度のポーランド孤児来日100周年のときに、敦賀に49名の子孫の方が来られたことがあったんですけれども、そのときに当然ポーランドの方、今ポーランドに住んでいらっしゃる方もいらっしゃって、ぜひ一回ポーランドのほうに来てほしいというお話がありました。

今後こういったつながりをどうしたらいいのかなと私ずっと考えていまして、できるだけ市民交流につなげていきたいなど。特に若い方。2年前ですか、高校生が敦賀からポーランドに行きましたけれども、それは上院議長の招待があったので行ったということがあったんですけれども、そのような若い方に是非このつながりというのを生かしていただきたいなという思いがあって、どのようにやったらいいのかなということを思っている中で、向こうの方にもそうやって声をかけていただき、やっぱりそれには、今回いろんなところに訪問させていただきますけれども、そういうところもしっかり見て、それから現地の方々の話もしっかり聞いて、それで今後のことを考える土台にしたいなと思っていましたので、今回こういう機会に現地を訪問するということを考えているということです。

また過去には、一番最初に当時の河瀬市長がリトアニアに訪問されたのが2001年ということで、25年前に行かれており、それからまた再び河瀬市長はリトアニア、ポーランド、それから渚上市長もリトアニア、ポーランドに行かれているということで、そういった関係をずっと続けてきているというのもありますので、今後そういうつながりができて四半

世紀経っていて、これからもっと若い人、先ほど言いましたように市民に交流を広げていくというところを考える上で、私も現地を訪問して、そういうつながりをしっかり強いものにしていきたいなという思いは、すごく今回の訪問についてはあります。

【記者】 若い方の交流につなげていきたいということですが、若い方の交流が結果的にさらに敦賀にもたらすものというか、視野の広がりであったり、グローバル人材というか国際的な人材の育成とか、そういったところなのかなと思うんですけれども、若い方の交流からさらにその先に期待することは、どういったことになるのでしょうか。

【市長】 今おっしゃっていただいたような視野を広げるとか、そういうことはすごく私も考えていますし、そのようになったらいいなと思っています。あともう一つは、こういうことを通じて敦賀の歴史を知ってほしいなと。敦賀ってこういう成り立ちのまちなんだなと、こういうことを知ってもらうことによって、敦賀のこれからのことも考えてもらえるような、敦賀に愛着ももちろん持ってほしいし、そのようにつながっていくといいなと思っています。

先ほど市民交流で、特に若い方と言いましたけれども、もちろん若い方だけではない市民交流というのも大事だと思っています。特にこれから、今後いろんな例えば行事であったりとかイベントだったりとか、そういう交流の何かを考えていくときには、今申し上げたような視点から、できるだけ若い方に参加していただけるような、そういう企画をしていきたいなと思っています。

【記者】 ポーランドとかリトアニアといいますと、ウクライナとかロシアとも地理的にもといいますか、いろんなつながり隣接もしているんですかね。かなり地理的にも歴史的にも近いと思いますけれども、今あの辺りは紛争といいますか大変な状況ですけれども、その辺り、今こういったタイミングで行かれるということで、平和であったりとか、人道の精神とか、そういったようなことも発信といいますか、何か考える機会にというような、そういった思いもあるのでしょうか。

【市長】 そうですね。私自身もそうかもしれませんし、今後ということであると、先ほど申し上げたように、若い方にもそういうことを考えていただくし、もし思いがあるならば発信をしていくということにもつながればと思っています。

令和5年なのでもう2年前になりますけれども、実際、敦賀の高校生が12名、ポーランドの上院議長のお招きがあつて現地リトアニア、ポーランドへ行きましたけれども、やっぱり今そういう出来事の中で行っているということもあつて、本当に帰ってきてから報告

会みたいなのをしていただいたんですけども、何かすごくやっぱり得るものが、彼らにとって、彼女らにとって得るものが大きかった。ほんの10日ぐらいの訪問だったんですけども、すごく成長したということすら感じさせるような感じでしたので、そのように今後になっていったらいいなと思っています。

そうそう頻繁に訪問に行けることでもないと思いますし、訪問ということになると人数も限られてくるということになるので、何か今だったらリモートでいろんなこともできますから、いろんなやり方というのは考えられると思うので、今おっしゃっていただいたような平和のことだったりとか、そういうことも考えてもらえるようなつながりというのをこれから持てたらなと思っています。

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは次に、フリーの質問対応に移りたいと思います。初めに幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 冒頭でもありましたけれども、今月、参議院選があるということで、市長なかなか意中の候補というのは難しいかもしれませんが、どういった資質のある方に今後の福井の6年間、資質や考えのある方に6年間の福井を託されたいかというのを。選挙中どういった実りある議論も踏まえて、こういうような人が選ばれてほしいと、こういうようなテーマに強い人が選ばれてほしいというのがあったら、ぜひお願いいたします。

【市長】 意中のとか、それは言える話ではないと思うんですけど、ただ、前の衆議院選挙のときにも私、申し上げたんですけども、国政ですので、大きいしっかりしたテーマを争点にやっていただきたいなど。それはどの候補に対しても思っていることなんですけれども、あるいはどの政党に対しても思っていることなんですけれども、我々今、地方行政をやっていて、やはり国の政策があって、それを踏まえて我々がやっているということが結構多くて、国としてもうちよつと考えてほしいとか変えてほしいと思うところが結構あるんですね。

特に私たちからすると、社会保障の分野は大きいテーマになってほしいなど。それは単に負担の話だけではなくて、社会保障自体の在り方をこれからどうしていくのかといったことを、私、すごく大事なことだと思っているんですけども、なかなかテーマに今までなっていなかったような気がするので、そういうところを争点にやっていただきたいなど選挙戦全般に関しては思っていますということ。

それから、ではどんな人がいいですかと今の御質問の中にあつたことにお答えすると、

今取り立てて人気の政策じゃなくても、例えば10年たって、20年たって、あのときにこうやっておいてよかったなというような政策をしていただける方がいいのかなと思っています。

以上です。

【記者】 あと、今日から7月ということで、国の概算要求の時期も近づいてきましたけれども、敦賀市さんは普段から国への要望は多くされているかと思いますが、特に来年度、特にこれをぜひ事業化してほしいというか、幾つかあると思うんですけども、特に来年これをというのがあったら、今後力を入れてより要望していきたい部分等ありましたら、お願いします。

【市長】 国に対してですね。

今、まずインフラ関係でいいますと、港の工事をやっていますので、これについては順調に進むようにやってほしいなということが一つ。

それから道路についても、ずっと要望している国道関係の事業がありますので、国土強靱化の話もスタートしますので、これもしっかりとやっていただきたいなと思っています。

もう一つは、やっぱり新幹線関係のところ、言葉としては認可・着工というのが一番いいかと思うんですけども、予算措置もしっかりしていただきたいなと。

インフラ関係についてはそういうところですね。

もう一つは、やっぱり福祉関係のところ、今、非常に国のほうもいろんな意味で福祉関係、特に子育て関係であったりとか、なかなか社会の中で生きづらさを感じている人たちに対するケアというのが国のほうで大分頑張ってきていただいているなというのは思っています、それを継続してやっていってほしいなというのは思っている。

もちろん我々も予算的には一緒になってやることになると思うんですけども、そういうところは引き続き力を入れてやっていってほしいなと思っています。

以上です。

【広報広聴課長】 それでは次に、各社よりお願いいたします。何かございますでしょうか。

【記者】 先ほど参院選のところ、しつこくて恐縮なんですけれども、意中の候補というところで、先日、滝波さん、敦賀での国政報告会、市長、出席されていらっしゃるかと思うんですけども、自民党の滝波さんを応援、支援するというスタンスではないのでしょうか。

【市長】 もちろん現職で頑張ってくださいていますし、今現在の関係性というのももちろんありますから、機会を見てはああいう場面もあるのかなと思っています。

ただ、今、市長としての記者会見の中で誰がいいとか、そういうことを言うことは差し控えたいと思っています。

【記者】 参院選候補が現時点で7人出ている状態だと思うんですけど、嶺南の候補が嶺南を地元にもつというか、一人もいないということについてどう思われているか、お願いします。

【市長】 例えば、これって私とかでもそうなんですけど、敦賀市内で言っても何々地区出身とか何々地区出身というのはあると思うんですね。私、じゃ住んでいるところだけのことを気にしているかという、もちろんそうではなくて、ほかの地域のこともつながりを持ちながらいろいろ考えていくということで、それは衆議院であっても参議院であっても同じだと思うんですね。

それはやっぱり嶺南出身の方がいていただくと、地元のこともそれはよく分かっているからありがたいんですけど、じゃ嶺北出身の方で全く嶺南のことは知らないよと言うかという、絶対そんなことはないと思うんです。今そうやって国会議員の方がいらっしゃいますけれども、衆議院、参議院いらっしゃいますけれども、別に嶺南出身ということでもなく嶺南のことは気にかけていただいているなと思いますし、また、こんなこと言っただけなんですけど、本当によく勉強されているなと思いますので、そこは嶺南の出身の議員さんがいていただいたらありがたいですけど、いないからといって、その状況はよろしくないなとも思ってないですね。

【記者】 先ほどの予算に向けてのお話の中であった新幹線に関連しての市長のお考えをお伺いしたいんですけど、先日、京都で大深度地下トンネルに反対する決議が市議会で行われて以降、舞鶴だとか京都府下、京都府内のほかの自治体でも違うルートを進めるような決議が出てきたりとかして、収拾つかなくなっているんじゃないかというような心配の声も聞くのですが、一方で、もう既に決まっている小浜京都ルート、福井県としては小浜京都ルートを求めていくに当たって、解決するには何が必要かということを考えていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 私、ルートの的に言うと、本当に京都を通ったほうがいいと思っているんですね。例えば舞鶴とか福知山とかいろいろお話がありますが、やっぱり京都を通して、かつ時間短縮効果もしっかりあるというのは小浜京都ルートだと、私は冷静に考えるとそこ

じゃないかな、このルートじゃないかなと思っ

ていると。
結局、今、收拾がつかないみたいなお話がありましたけれども、まずはどこを、京都の北部どこを通っても私は京都駅を通ったほうが良いと思っ

ていますので。
となると、大深度で通す京都市内の皆さんの理解というのは絶対に要るよというところ

で、それに対する理解活動というのは、しっかりやっていただきたいと思っ
ています。
前、杉本知事がお話しされていたんですけども、リニア新幹線で名古屋のほうで大深
度で工事をしていきますけれども、特にトラブルもなく、大きな反対もなくやっていると。
工事自体もすごく順調に進んでいるので、そこで工事していることを知らない人も多いぐ
らいスムーズに行っているという話がありましたので、地下水の問題で言ったら別に名古屋
も京都も同じような問題はあるはずで、それはどこに限らずあるはずで、そこをトラブ
ルなくやる、それを可能にする技術というのがあるからこそ大深度地下だという話になっ
ていると思うので、そこをしっかりと京都の中で理解いただくようなアクションというの
を取ってほしいと思っ

ています。
その上で、認可・着工というところに、なかなかその言葉が出てこないのがこうやって
いろんな意見が出てくる一つの大きい原因だと思いますので、そこは本当にブレずに、で
きるだけ早くつなぐという観点から、早く認可・着工という決断をしてほしいと思っ
ているところです。

【記者】 早く認可・着工ということですけども、着工となるためには着工5条件のク
リアが必要ということになってくると思っ

ていますけれども、市長としては、京都のトンネル
の問題が解決できれば、その着工5条件はクリアできると考えていらっしゃいますか。
【記者】 そうですね、着工5条件で自治体に関係してくるというのは、並行在来線がな
くなるというか、それで特急とかが廃止になる自治体の同意ということだったと思っ
ますので、それに該当する自治体というのがどこどこあるのかなという、京都市内はそれに
該当するのかどうか分からないですけども、着工5条件というよりも、むしろ住民の皆
さんの理解というのが大事だと思うので、厳密に着工5条件をあのまま読むと、どこど
この自治体が当たるんだ、結構当たらないところのほうが多いんじゃないかと思っ
ますけれども、それだとしても通るところの住民の理解というのはやっぱり必要だと思っ
ますので、歓迎されるべき新幹線であるべきだと思いますので、着工5条件、もちろん大事で
すけれども、そういった先ほど申し上げたような理解への取組というのをしっかりやってほ
しいと思っ

【広報広聴課長】 ほかがございますでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

どうも本日はありがとうございました。

午後 2 時00分終了